

授 業 科目名	入門（国際関係）	選 択	開講年次	1	単位数	2
科目区分	専門科目					
サブ タイトル	国際社会と日本のこれまで・これから		担当者	青木 隆		
講義概要	<p>【概要】 国の外交姿勢や国際連合の役割などについて再検討すべき多くの課題が存在する現在、国際性を有する問題について自らの立場を決定する能力を備えることが求められます。この科目は、このような能力を習得する第一歩として位置づけます。具体的には、下欄に掲げる国際制度の基礎的事項や概念を紹介する講義が中心となります。受講者が国際関係に関する十分な知識を持たないことを考慮して、関連諸学の基礎知識、外国語を含む用語や用字の解説にも時間を費やすつもりです。</p> <p>【到達目標】 高等学校までに、社会科で学習した[はずの?]ことを整理し、脈絡をつけて体系化しましょう。</p>					
履修条件	とくにありません。					
教科書・ 参考書	<p>【教科書】 なし</p> <p>【参考書】 必要な資料や参考文献を必要に応じて紹介することとして、教科書は指定しません。ただし、学習用六法を購入する際、国際条約編が充実しているものを選ぶとよいでしょう。</p>					
授業回数	内容					
1	ガイダンス					
2	世界の国々 国際社会の拡大					
3	国の成り立ちと構造					
4	民族と国民					
5	国際比較の基準					
6	戦争と平和					
7	国際関係の構造					
8	国際交流の多層化					
9	日本との出会い					
10	国際社会の組織化					
11	日本の再建					
12	国際連合					
13	国連と日本					
14	日本のこれから					
15	まとめー試験の解説					
評価方法	筆記試験（自筆ノート、配付資料及び条文のみ持ち込み可）の成績及び受講態度により単位認定および成績評価を行います。					
評価基準	試験において講義内容を理解していることを示したと認められる答案には「A」、理解や表現に不足があるものはその程度に応じて「B」または「C」、設問または講義内容の理解が著しく劣るものはその程度に応じて「D」または「E」（ともに不合格）とし、これに受講態度（質問票への記述の量および質（試験の評価基準に準じる。）に基づく。）を加味して受講者の評点とします。					
その他	特になし					